

## 越生・鳩山新校準備委員会（第1回） 議事録

- 1 日 時 令和5年8月22日（火） 午前10時00分開会  
午前11時30分終了
- 2 会 場 県立越生高等学校白梅館1階
- 3 出席委員 依田委員長、吉澤副委員長、堀副委員長、岩澤委員、松浦委員、伊東委員、長島委員、谷ヶ崎委員、佐々木委員、高橋委員、白石委員、廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協議等 「越生・鳩山新校基本計画検討（案）」について  
依田委員長 それでは、協議に入ります。事務局より、本委員会につきまして、説明をお願いします。  
事務局 （新校準備委員会の位置付け、今後のスケジュール、鳩山町の意向と今後の対応について説明）  
依田委員長 今の事務局からの説明につきまして、御質問等はございますでしょうか。新校準備委員会等の会議の性格付けといった話でしたが、御理解いただけましたでしょうか。それでは、続きまして資料2になります。魅力ある県立高校づくり第2期実施方策、これは新しく作る学校の大枠、コンセプトになりますけれども、この内容につきまして、皆様から御意見をいただきたいと思っております。内容につきまして事務局から説明をお願いいたします。  
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）  
事務局 本日は皆様にお集まりいただく最初の機会ですので、お時間をいただきまして、アニメーションに関して、若干補足して説明させていただければと思います。アニメーションとは、絵や人形などを少しずつ変化させて1コマずつ撮影し、被写体が動いているように見せる映像表現技法の一つです。パラパラ漫画のように透明なシートに描いていくセルアニメーションや、粘土細工をコマ撮りするクレイアニメーションなどが知られています。アニメーションと言うと、日本国内では、鉄腕アトムをはじめ様々な商業アニメーションが数多くリリースされているため、アニメのイメージが強いかと思いますが、冒頭で御説明したとおり、本来、アニメーションの概念はもっと広いものです。新校の学びにおいては、アニメ業界のアニメーター養成のような狭い世界を考えるとということではなく、アニメーションを芸術という幅広い世界で捉え、芸術的表現手法の一つとして取り扱うことにしたいと考えております。一つの例ですけれども、東京藝大にも、その大学院の映像研究科の中

に、アニメーション専攻という課程があります。新校のアニメーションの学びについても、芸術的表現手法の一分野として、あるいは映像表現の一手法として、幅広く学んでいくものだと考えています。新校基本方針では、「美術に関する専門科目に加え、アニメーションに関する科目などを設け、専門的な知識や技術の習得を目指します」と記載しており、現在の越生高校の美術科の学習内容を発展させていきたいと考えています。具体的には、現行の美術科の学びにアニメーションを追加して、芸術としての間口を広げていくイメージです。高等学校の学びを定めるものは、それぞれの校長が編成する教育課程に基づきますが、この教育課程は国が定める学習指導要領に沿ったものでなければならず、学習指導要領に定めのないものは高校の授業にはなり得ません。では、アニメーションについてはどうでしょうか。閲覧用に、美術の教科書を用意しております。例えばこれは、日本文教出版社というところが出している高等学校美術Ⅰというもので、たまたまこれは越生高校の普通科の生徒が使用している教科書と聞いています。この中にも、アニメーションのことが書かれています。現在の越生高校の専門学科である美術科の教育課程には、専門美術の科目である絵画が置かれています。この絵画という科目の中に、学習指導要領上では、漫画・イラストレーションという指導項目があり、その中でアニメーションについても学習を深めることができると書かれています。他にもいくつかございます。例えば、高校2年生相当で学ぶ美術Ⅱでは、同じ出版社の教科書では、コマ撮りアニメーションが紹介されています。越生高校の専門美術の中には、映像表現という科目もありますが、その中でアニメーションを映像表現方法の一つとして扱うことができます。かつて越生高校美術科でも、映像表現の授業の中で、アニメーションを制作するプロセスを扱っていた時期もありました。美術科にはアニメーションの学びについて下地があると考えています。また、学習指導要領には「指導に当たっては、学校の実態に応じて、制作現場を訪れて、制作過程を実際に見学したり、あるいは、カメラマンや映像作家などを招聘したりするなど、作者の表現の意図、作品のよさや美しさ、制作プロセス、制作技術などについての理解を深め、映像表現の意義と役割、可能性や発展性についての考察を深めることができるようにすることが大切である。」との記述もあり、プロのスタジオなどとの連携の重要性も示されています。こうしたことから、基本方針においては、高校の学習指導要領を踏まえつつ、現行の越生高校の美術科の学びにアニメーションを追加していくことを想定しています。お時間を取ってしまいましたが、以上がアニメーションに関する補足説明です。

依田委員長 それでは、大枠ですね、既に昨年度のうちに示されている大枠について説明をいただきました。アニメーションというものについて、恐らく各委員一人一人イメージが違う可能性がありましたので、事務局の方に、細かく説明をいただきました。ここまでの事務局の説明、資料、内容につきまして、委員の皆様から、疑問点や意見などございますでしょうか。

高橋委員 この後の説明の中にあるかどうか分からないのですが、令和8年度に新校が開校した際の、普通科、美術科、アニメーション科に分かれるのかと思うのです

が、だいたいどれくらいの人数を計画されているのでしょうか。

依田委員長 高橋委員から、学校規模、クラス規模について御質問がございましたが、今現在はどのような考え方でしょうか。

事務局 とても大切なところなのですが、本日はなく、第2回目以降に、こちらから案を提示させていただき、皆様から御意見を頂戴したいと考えております。他の新校準備委員会でも同じ流れとなっております。また、学科としましては、普通科と、アニメーション・美術というのは仮の名称になっておりますが、その2つと考えておりますので、3つ目の学科については今のところ検討していないということになります。

岩澤委員 今の説明の中で、美術科の中にアニメを学べる授業を追加するということでお聞きしましたが、これは、アニメーションを選択して、選択科目として選べるようになるのか、それとも、美術科の授業の1コマとして全員が受けるような形になるのか、その点を教えてください。

依田委員長 これも、今現在の考え方を御説明願います。

事務局 現時点では、教育課程はこの先検討していくものと考えておまして、両方が考えられると思います。令和6年度になりますと、越生高校、鳩山高校の教職員が3番目の委員会を作ります。これは新校開設委員会というものなのですが、その中で、具体的な授業、選択科目にするのか必修科目にするのか等を決めてまいります。

伊東委員 先ほどの説明の中でアニメーションに関して説明をいただきましたが、今回、美術科の中にアニメーションというものが、一つの要素として取り込まれるようなイメージかなと思っています。その時に、アニメーションというものを前面に打ち出す意味というのは、どういうところにあるのでしょうか。

事務局 先ほど申し上げたことと重複するかもしれませんが、現行の越生高校の美術科の中に、アニメーションの素地と言いますか下地のようなところがあって、それをもう少し表に出していきたい、そういうことがもしかしたら中学生の学びの選択肢の中に一つの広がりを持って、そういったことに興味を持つ子供たちに訴求できるのかなと考えております。クリエイティブなという言い方もしておりますし、これは芸術全般に言えることかと思いますが、実際の素材をどうするかというところについて、これまで越生高校の美術科では絵画であったり彫刻であったりクラフトデザインであったりいろいろ取り組んできているところですが、その中の一つにアニメーションというものを加えていけたら良いと考えております。基本的なところは、芸術というか美術の世界を子供たちにもっと広げていってチャンスを広げていきたいと考えております。

伊東委員 今おっしゃっていただいたことを踏まえると、例えば中学生が高校を選択する際に、アニメーションという言葉が前面に出てくることによって、例えばここで説明をしていただいたから、アニメーションというのはそういうものなのかと思った人もいますかと思いますが、私も学校で教えていてもそうですし仕事をしていてもそうですが、アニメーションイコールテレビでやっているものというイメージが

ありますので、この学校に来ればアニメができるんだと思ってくる人も多いのではないかと思います。その辺り、今おっしゃっていただいたところというのを、どのように説明していくのか、そのところはどのようにお考えなのかお聞きしたいと思います。

事務局 鋭い御指摘だと思っております。私たちもそこをすごく大事なポイントと考えております。特に開校前年度には、全面的に、新校に対する広報活動を行っていくこととなります。いわゆる生徒募集活動をやっていくわけですが、そこでは、ある意味過大な期待であったりとか、最終的にはそれがミスマッチにならないようにしっかりと広報していきたいと思っております。その意味では、本日は地元の教育委員会の方にも来ていただいておりますが、中学校、教育委員会とも連携しながら、新しくなる越生・鳩山新校はこういう学校なんだということをしっかり伝えていく必要があると思っております。

伊東委員 これから話をしていくことになるのかもかもしれませんが、ここで打ち出しているアニメーションという言葉、表に出さなくしていくことは可能でしょうか。というのも、今おっしゃっていただいたことと言うと、例えばですけれども、アートとデザインという言葉に置き換えることもできるかと思います。美術というのはアートの部分。御説明のとおりアニメーションというのはあくまで手法ですので、それを使って自分自身が何を表現していくのか、何を伝えていくのか、いわゆるコンテンツですね。そこで一方、グラフィックであろう例えばウェブコンテンツ、ウェブデザインのことですけれども、デザインの分野においてアニメーションという技法を使う。それから、例えば絵を使うといったところで、その両方を学んでいけるという方が、中学生にとっても分かりやすいかもしれませんし、これから出てくるのかと思いますが、仕事に直結していく、将来を見据えていくと、コンテンツ業界も人が不足しているところはありますが、そういう部分でそのリソースを高めていくことができれば、アニメーションという言葉で人を惹きつけるようなことをしなくても、アートとかデザインとかもう少し広い意味の言葉を使っても良いのではないかと思います次第ですので、最後に述べさせていただきました。

事務局 次回の議論の中でそういった御意見を頂戴することになるのかと思いますが、学科名というのが、いろいろな意味で重要になってくるのかと思います。ですので、その打ち出し方というのも、どういう名前を付けるのかということにもかかわってくると思いますし、伊東委員の御指摘というのは、非常に私どもと重なる部分がございます、本当にその通りだなと思っておりますので、またいろいろと御指導を賜りながら原案作りに生かせればと思っております。ありがとうございます。

依田委員長 伊東委員、よろしいでしょうか。是非基本計画検討委員会の中で、今の御意見を伝えていただいて、十分な御議論をしていただければと思います。

長島委員 今までのお話を聞いていると、アニメーションに関する学びに非常に力を入れている、その意欲は見たのですが、例えば今までも越生高校には美術科があって、それに携わる専門の先生方がいらっしゃるわけですが、ここに対する教師の派遣と言いますか養成と言いますか準備というか、全体像としてどのように今後、

令和8年度の募集が始まるわけですから、そこにちゃんとアニメ・美術科と出るわけですから、その辺の準備体制ですよ、どのようにお考えか聞きたいと思います。

事務局 ありがとうございます。こちらも極めて大事なお話でして、新しい学びをスタートさせるためには、新しい教員の資質・能力を向上させたり開発させたりしていく必要があると考えています。教育委員会では、先生方に現職のまま、職場を離れて、所属校を離れて長期に渡って研修をするという制度がございます。令和8年度から開校ですので、それまでにそうした分野に力を発揮できるような教員を、もちろん発掘することもありますし、またそういった研修などを通じて力を高めさせていくということを進めていきたいと考えております。現に別の学校では、今、1年間大学に行って新しいジャンルの学びを進めている教員もいますので、そうしたところにうまく乗せていけると良いと考えております。

長島委員 そうしますと、資料2に載っている、県内にあるアニメーションスタジオなど外部機関との連携を通してというのは、生徒はもちろん、今言った教師養成という面にも利用する、やっていくという方向性で考えていますか。

事務局 その通りでございます。ここには、などの外部機関と幅広く書かれていますが、例えば大学でアニメーションを研究している研究者の方がいれば、そういうところに教えを乞うといったようなことができるの良いなと考えております。

依田委員長 それではその他、委員の皆様から御意見ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。また最後に全体を通して皆様から御意見等をいただくこともございますので、先に進みたいと思います。次に基本計画検討委員会において検討しております基本計画検討(案)について、御協議をお願いしたいと思います。資料3を御覧ください。事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)、基本姿勢について説明)

依田委員長 それでは、資料3の1ページと2ページについて、事務局から説明いただきました。今まではどちらかということ、新しくできる学校に付加するアニメーションを中心としたお話をさせていただきましたけれども、ここからは、新しい学校の、普通科も含めた全体像について、皆様から様々なお話を賜ってまいりたいと思います。基本理念と教育活動の基本姿勢について事務局から説明がありました。越生高校、鳩山高校の関係者の皆様につきましては、こういったところを新しい学校にも是非、またこういったところはこうしてほしいといった御意見があるかと思っておりますので、それぞれ承ってまいりたいと思います。いかがでしょうか。まだ御発言をいただいていない委員の皆様からいただければと思うのですが、何でも結構でございます。お子様の現状であったりとか、また御自身の経験からでも結構です。学校の良いところ、また、より良くしていきたいところ、様々あるかと思っておりますので、御意見いただければと思います。申し訳ございませんが、PTAの方からお願いできればと思います。佐々木委員から何かご発言をいただければ。

佐々木委員 今のところ、特にありません。

依田委員長 分かりました。それでは白石委員からありますでしょうか。

白石委員 そうですね、この後、思いがまとまったところで発言したいと思います。  
依田委員長 分かりました。他、いかがでしょうか。

岩澤委員 もしかしたらこの先の話になるのかもしれませんが、美術、アニメーションのところに今までフォーカスされていましたが、最終的には美術、アニメーションのクラスよりも普通科の方が多クラス数になるのではないかと思います。越生町、それから鳩山町にある2つの高校が統合するということですので、この地域の子供たちが是非この学校に行きたいというような思い、近在のときがわ町や毛呂山町なども含め、そういった学校作りというのが必要なのではないかと思います。特に、偏差値に左右されて学校を選ぶというのではなく、この学校の何か特徴的なものがあって、そこを選びたいというのが、美術科と同じように普通科にも特色を何かしら加えていっていただきたいというのがあります。ですので、今後の教科指導のところにあるのかもしれないですが、そういったところも目指していただきたいと思います。

事務局 御指摘はその通りだと思っております。ボリュームとしては普通科の方が多くなる可能性もありますので、普通科の魅力というの、今以上のものを付けていく必要があると考えております。確かに、アニメーションという言葉の中には、中学生を惹きつけるという意味合いがあるのかもしれないですが。ですので、普通科の方がアニメーションに負けてしまわないように、いろいろな特色を、それぞれ両校が持っている良いところをレガシーとして継承しながら、より良い新校ということを目指しているところです。ありがとうございます。

吉澤副委員長 越生高校ですけれども、今おっしゃっていただいたところ、本校は普通科と美術科の2学科併置となっておりますが、おかげさまでどちらかという美術科については、地元だけでなく埼玉県内の遠いところからも、目的意識を持って来る生徒が多くいます。倍率でも、だいたい募集定員に達する程度の魅力はあるのかなと思っています。逆に今は普通科の方が、募集定員の半数近くしか集まっていないというのが現実です。岩澤委員からおっしゃっていただいたように、普通科の魅力作りを高めるということが、新校を作っていく上で欠かせないことの一つかと思っております。ですから、アニメーションで美術の学びを高めていくことと合わせて、普通科の魅力作り、やはり地域から求められる普通科を目指していく必要があると思っています。現在の越生高校普通科の特色としては、少人数学級編制。2クラスの募集ですがそれを1、2年生は3クラスに分けてやっています。ですから極端に言うと、普通科の1年生は今年55名が入学してきましたが、それが3クラスなので、1クラス18名程度ということでもかなり少ない人数でやっています。国語、数学、英語の3教科においては習熟度別で2つから3つに分けています。ですから、一番少ない授業では、5名とか6名といった少ない人数で、教員だけでなく学習サポーターとして大学生にも入ってもらってTTで5、6名の生徒に対して2名で手厚く指導に当たっています。教員以外にも、日本語支援員やSC、SSWなど、いろいろな方々の力を借りながら、3年間丁寧に指導してきているというのが普通科の特徴です。また、将来的な職業をとということで、これからAIの時代になります

ので、恐らく、生き残っていくというか必要とされる、地域の特性を考えても、例えば介護職であったり保育士であったりというのは地域からも求められてくるところがあるのかなと考えております。そういった手厚い指導を、将来、地域から求められる職業に結び付けていけるような特色を是非この2年間で構築していきたいと考えております。

堀副委員長 鳩山高校は2年目になるのですが、鳩山高校の現状を少しお話させていただきたいと思います。2年間いて私の実感としては、非常に良い学校だなということです。手前味噌で言うのもおかしいですが、とにかく生徒は、清掃は良くする、挨拶は良くする、時間は守れる。去年修学旅行に一緒に行きましたが、時間を守れない生徒もいない、体調不良になる生徒もいない。私は教員生活40年くらいやっていますが、そんな学校は初めてでした。それだけすごい生徒が集まっている学校です。ただ一つ、課題というか、自信の無い生徒が多いですね。すごく良い子なのですが、なかなか中学校のときにつまずいてしまったりとか、勉強とか部活動もそうなのですが、そこでなかなか自分自身を伸ばせていない生徒が多いのが現状です。その中でも、本校にも美術部があり、毎年のように総合文化祭に出展してしまして、去年は教育長賞もいただいたりとか、非常にがんばる子はがんばります。自転車部も今、活躍しています。そういったふうに、誰かが手をかけてあげるとすごく伸びる生徒が多いです。新校に期待したいことは、そういった子たちを是非伸ばしてあげる学校にしてほしい、自信を付けさせてあげる学校にしてほしいというのが私の実感です。吉澤委員からもあったように、いろいろと手厚いフォローが必要かと思えます。教育課程もそうですし、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、いろいろなところから生徒をフォローすることで生徒が自信を付けていく、そういう学校になってほしいというのが希望でございます。後は、鳩山町との連携というか、地域との連携もいろいろな取組を行っております。学校運営協議会、コミュニティスクールもやっておりますので、そういった形で是非新しい学校も地域との連携も深めていただいて、具体的な学習分野においては、総合的な探究の時間を始め、地域との関わりの中で学んでいくというのも必要になってくるかと思えますので、是非そういった活動を、生徒が地域に出て行って一緒になって町を良くしていく活動ができていければ良いかと思えます。美術科とアニメーションが注目されていますが、普通科の方も魅力を出していただいて、アピールしていただくと生徒募集にもつながっていくのではないかと思います。皆様方の御意見等もうかがって良い学校にさせていただきたいと思えます。

依田委員長 各学校の校長先生からお話をいただきましたが、先に進めさせていただいてよろしいでしょうか。またまとめてお話をいただくタイミングを設けますので、それでは続いて3ページについて事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち教科指導について説明)

依田委員長 今説明をいただきましたけれども、委員の皆様から御意見、御質問をいただければと思います。教科指導ですから、専門的な言葉が多くて分かりづらい言葉もあるかと思いますが。習熟度別学習とかティーム・ティーチングとか学習サポ

ーターとか、いろいろ聞きなれない言葉があるかと思いますがけれども。御専門の立場で、例えば松浦委員さんから、何か教科指導について御意見等はございますか。

松浦委員 教科指導に書かれていることに関しまして、基本方針について、先ほどの目指す学校のところと重なるところもありますが、アニメーション関係については特色を付けられると思うのですが、普通科となってくると、目玉となると思いますか、新校ならではのという観点で特色を出すのは、まだぼやっとしているのかなと思うので、これからそこを詰めていく必要があると思っていますが、この学校に来ればこんな学習ができる、こういうことはできないといったことが、分かりやすく子供たちや保護者に伝わるものを掲げられると良いのかなと。ここに書かれていることは本当に必要なことであって、こういった手立てをしていくことは大事だと思いますが、その中でどう特色を出していくのかということが必要だと感じました。

依田委員長 ありがとうございます。他、委員の皆様からございますでしょうか。特になければ、今いただいた御意見を検討委員会の中で是非お伝えいただいて、検討いただければと思います。それでは続きまして、4ページ、生徒指導について事務局から説明をお願いします。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について説明)

依田委員長 スクールカウンセラーというのは、学校にいて、児童生徒の心理面のサポートをする臨床心理士などの専門家を言います。スクールソーシャルワーカーというのは、経済的、家庭的、様々な社会的環境の中の困難にいる児童生徒について、福祉の専門家などにつなげていく、どちらかという福祉のサポートをするための職になります。聞きなれない表現かと思いますが、そういった意味です。生徒指導について、御意見いかがでしょうか。

伊東委員 ここまで見てきてということもあるのですが、今までこういった、学校の基本的な方針というものをいろいろ見させていただいたことがあるのですが、情報を正しく扱う者を育てるとか、そういう記載を余り見たことがありません。今の世の中、私もそうですけれども、仕事においては、情報を正しく扱う、それは正しい情報を取得して正しく発信するというのもそうですし、仕事柄、当然ですけれども構想前の作品であればそういうものは出してはいけないというのもありますし、SNSでこういった言葉を使ってはいけないのか、今の子供たちは当たり前のように使っている世代ですので、そういうところをきちんとやっていくという点も盛り込んだ方が良いのではないかと思います。併せて、美術に限らないのですが、コンテンツに関わるということで著作権等々の問題も出てきますので、できれば、法律とは言わないまでも、そういう部分をきちんと理解ができる人というのは、一つの特色になってくると思います。これからの時代に強い、デジタルに強い人材を育てるというところも、検討していても良いのではないかと思います。

事務局 御意見ありがとうございます。私たちも、著作権のこととか、埼玉県の学校全体の課題ではありますが、情報リテラシー的な、情報をどのようにうまく活用していくか、解釈していくか、そういったところはしっかりと指導していかなければならない大きな課題となっておりますので、是非御意見をうまい具合に案の中に取



り込んでいきたいと考えております。御意見ありがとうございます。

依田委員長 他、いかがでしょうか。昨今、校則の見直しだとか、校則についていろいろと議論されているところではあるかと思いますが、例えば保護者の方から見て、特定の学校でなくても構わないですが、校則であるとか子供たちの生徒指導について思うところがあれば御意見をいただくと、今後の議論に反映できるのですが。何かございますでしょうか。

白石委員 今あった校則なのですが、私たちの時代もそうでしたが、今は整容検査ということでやっていますが頭髪検査ですね、髪の毛が明るければ黒く染めてこい、スカートが短ければ膝丈だろうと言われていたのですが、子供同士の情報でいろいろ聞いた話では、川越にある学校は少し校則が緩いとか、そのために生徒が行きたい行きたいと言っているそうです。やはり今は実際にそうなんですよ。どんなに良い学校でも、でもあそこって髪の毛ああじゃないといけないんでしょという話題が子供同士で情報として回っているので、どんなに親が、新しい高校はアニメーションも学べてすごく良いらしいよと言っても、子供が、嫌だよあそこ制服ダサイしということになると、今の親は若い方も多いので、じゃあやめておくかということになってしまいます。なので、昔ながらの校則は少し見直していただきたいというのが親としての本音かと思います。具体的に言うと、ツーブロックがだめとなっているが、なんでだめなのか教えていただきたいということになってしまったりとか、保護者としても思うことがいろいろあるので、この校則に関しては、アニメーション、クリエイティブとうたうぐらいだったら、それに合わせたような特色がないとはっきり言って魅力がないということになってしまおうと思います。

依田委員長 佐々木委員も何かございますか。

佐々木委員 今の御意見と同じようなことですが、頭髪やスカート丈については、今の時代に合ったものに変えてもらって、見た目で判断する人もいるかもしれないですが、見た目がそうでも別に中身がしっかりしているお子さんもいらっしゃると思うので、その辺は考えてもらっても良いのかなと思います。

依田委員長 まとめて事務局からお願いします。これはもしかしたら事務局と意見がぶつかることはありますか。

事務局 決してぶつかることはないと感じています。生徒指導を巡る環境は本当に大きく変化していて、理想的なところで言うと、生徒指導を公開するとか、あるいは教員と生徒が保護者も交えて自分たちのルールはこれで良いのかを議論し合うとか、いろいろな動きが出てきていますので、実際は、全く何も制限なしに高校生くらいのお子さんたちに学校生活を送ってもらうとなると、生徒たちが逆に不安を抱くこともあるので、その辺りも踏まえて、どんな在り方が良いのかということ、うまく学校の力として付けられるような、そんな学校にしていきたいと思っています。

依田委員長 貴重な意見をいただきましたので、是非、基本計画検討委員会でも議論いただきたいと思います。

高橋委員 追加です。校則を検討する中で、大人たちが考えても、結局、固定概念と

どうか、なかなか変えられないということもあるかもしれませんが、子供たちの意見も取り入れて、柔軟に新しいルール作りをしていった方が良いのかなと感じております。

事務局 全くその通りだと思っております。

依田委員長 是非お願いしたいと思います。時間も押してまいりましたので、続いて、進路指導と生徒募集を合わせて説明いただいでよろしいでしょうか。

事務局 (越生・鳩山新校基本計画検討(案)のうち進路指導、生徒募集、その他について説明)

依田委員長 進路指導、生徒募集、その他について説明がございました。委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。進路指導、生徒募集、その他のいずれでも構いません。生徒募集につきましては、できれば、送り出す側にいらっしゃる中学校長の谷ヶ崎委員から、中学生の進路の志向と言いますでしょうか、何かアドバイスをいただけると大変有り難いのですが。

谷ヶ崎委員 進路指導、生徒募集、それからその他の部分にも関わってくるのかなと思います。先ほどからいろいろな話が出ている中で、中学生が、この学校に行って学びたいと思える学校にできるかどうかということがすごく重要なところかなと思います。この学校に行けばこういう力が付くとか、卒業後にはこんな道が開けるとか、そういった具体的なものをしっかり示していくことが、新校を立ち上げていく上では重要なのかなと思っております。生徒指導のところもそうなのですが、生徒指導というのは、教員が生徒に対して、これは良いこれは悪いと厳しく指導するだけでなく、授業だとか部活動だとか学校行事だとか、毎日の学校生活を通じて子供たちが将来より良く生きていくためにどんな力を付けていくのかというのが生徒指導なので、そういう具体的なところをきちんと中学生にも分かるような形で示していけると良いのかなと思います。

依田委員長 ありがとうございます。今の御意見は是非検討委員会の中で検討していただきたいと思います。

長島委員 今までのお話を聞いている中で、新校になるという情熱は非常に感じられるのですが、高校を卒業したら終わりというわけではなくて、資料3の最初に、進路実現という論点がありましたが、今は恐らく高校を卒業しても7割、8割は専門学校なり大学なり、四年制大学なり短大なりに進むのではないかと思います。そういった中で、新校において、普通科については校長先生からもお話があったように募集定員に足りない現状が続いていると。もう少しこちらにも力を入れてもらって、今度越生にできた新校は進学校として非常に優秀だよという評判が出るような教育現場を作っていただいて、新校の生徒は皆、何かしら次の専門学校なり大学なり行くのだという評判を作っていただくと、ますますよろしいのではないかと思います。美術科においても、すぐ社会に出てお役に立てる生徒さんもいるかと思いますが、こちらに伊東先生もいらっしゃいますが、専門の大学なりに進学できるよう進路指導していただいて、もっと能力を発揮できるような環境を作って生徒に勧めただけであれば、より良い大人になって社会に出られるのではないかと思います、見解

を述べました。

事務局 ありがとうございます。まさに高校3年間だけではないので、その生徒さんが卒業して、キャリア全般と言いますか、生涯に渡ってどういう人生を歩んでいけるか、自分の足で自分の人生を切り拓いていけるか、そういった力を付けていく必要があると思います。学び続けるという姿勢もすごく大事だと思いますし、また、その学び続ける姿勢が自分の次の人生に向けた進路開拓になっていくと思います。いろいろな道筋があると思いますので、それをしっかりと学校の中で、いわゆる進路指導ということで伝えていく。私も現場にいたときに感じたことですが、高校生は余り職業のことを知らないのですね。世の中にはたくさんの職業がありますが、そのことは余り知らない。身近なところの職業には興味を持ったりもしますが、自分のアルバイトを通じて経験したことなどをベースにするのですが、もっと広くいろいろなことを考えていってほしいと思いますし、そうしたところをしっかりと指導できるような進路指導体制を構築すべきだと感じます。出口の部分はどういう学校なのかというところが、中学生などに対する訴求力の高さにもつながると思いますし、新しい学校が、どうしてもアニメの話が注目されがちですが、普通科というのが、広く普く、いろいろなことを学べるということなので、様々な選択肢が出てくる場所ですから、そういったところに、将来を生きていくための力を付けさせていくと。そのような形にしていきたいと考えております。御意見、ありがとうございます。

依田委員長 その他、いかがでしょうか。

高橋委員 その他のところですが、まずセキュリティのところ、今の世の中、非常に何が起るかわからない状況にもありますし、時々、本当か嘘か、おかしなメールを出してちょっかいを出す方がいたときに、子供たちの安全を確保できるかということもあります。今、いろいろなところで監視カメラなどが設置されているかと思しますので、そういった怖い目に遭わないような対策を御検討いただければと思います。それと、環境のところ、この学校は御存じのとおり少し小高いところにありまして、坂道を上ることになります。学校の方には数年前にエレベーターが導入されまして、身体が不自由な方へのケアはされていますが、下からここに上がってくるためのケアが足りないのかなと思います。学校行事でご家族の方が越生高校にいらっしゃったときに、お年寄りの方が来るのにとっても辛そうなところを何度か見かけたことがあります。生徒さんは若いので体力が有り余っているから良いと思いますが、来校した方で、ちょっとこの坂道はしんどいという方に対して、何か整備というかそういったところを。あと、この坂を下ったところに横断歩道がありまして、そこを生徒さんは渡るのですが、なかなか横断歩道で止まってくれる車がないということで、待たされるという状況が非常にあります。数年前からそういった話を上げているのですが、その先に信号がある関係で、信号の設置は難しいという話があって、現状維持のまま今に至っているのですが、交通事故の防止ということもありますし、生徒さんたちが安心して来られるように、道路の整備とか、信号を付けてもらえるようにとか、もう一度、県なり町も含めて検討していただけれ

ばと思っています。何点か述べましたが以上です。

依田委員長 これについては要望として受け止めていただければと思います。

事務局 教育委員会としてできることとそうでないことがございますので、御要望は承りたいと思います。

依田委員長 全体を通して、再度、何か御意見等がございましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議の方はこれで終了させていただきたいと思います。大変活発、積極的な御意見をいただきまして、感謝申し上げます。ありがとうございました。